

事業名 CD	0104010102	保健対策推進事業	
細分化した事業名			
事業担当課室 CD	200400	保健課	整理コート*

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	誰もが安心して暮らせるまちづくり	
	中項目	健康な暮らしを守る保健・医療の充実	
	小項目	健康づくりの推進	
関連する個別計画等	食育推進計画	根拠条例等	健康増進法、食育基本法
関連する事業			

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	核家族化などライフスタイルの変化による孤食、偏食等を要因とした生活習慣病の抑制等、「食」による健全な生活、健康の確保を推進
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	全市民
これまでの改善経過	
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	〈実施・運営方法〉 <input checked="" type="checkbox"/> 市 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他 ( 0 ) ・食生活推進委員会との連携 ・関係部署との連携による推進 ・食育フォーラムの実施 ・各種教室(相談)での食生活の指導
事業の成果 (どのような状態にしたのか) (どのような効果を得るのか)	食を通じた正しい生活習慣の定着による生活習慣病等の抑制

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		19年度	20年度	21年度	
A	事業費 (千円)	3,434	1,053	1,044	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	市債				
	その他				
	一般財源	3,434	1,053	1,044	
B	担当職員数(非常勤   職員 E) (人)	0.50	0.60	0.60	
C	人件費(平均人件費 × E) (千円)	3,451	4,145	4,094	
D	総事業費(A+C) (千円)	6,885	5,198	5,138	
*参考		H21)市民1人当りの事業コスト	160 円	H21)市民1人当りの行政サービス費用	579,596 円

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。  
 注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、19年度(6,901千円)、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)を使用しています。  
 注3)一般財源とは用途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			19年度	20年度	21年度
活動指標	地域食育実習教室開催	開催回数(回)		11	11
		参加者数(人)		476	431
	食育推進フォーラム開催	参加者数(人)			185
	食生活改善推進員養成講座開催	参加者数(人)			77
成果指標	地域食育実習教室参加率	H21 参加者数/H20 参加者数(%) (431人/476人)			90.55
	食育推進フォーラム参加率	参加者数/想定人数(%) (185人/300人)			61.67
	食生活改善推進員養成率	修了者数/参加者数(%) (74人/77人)			96.10
効率指標	地域食育教室参加者1人あたりのコスト	開催事業費/参加者数(円)		462	510
	フォーラム参加者1人あたりのコスト	開催事業費/参加者数(円) (56千円/185人)			302
	養成講座参加者1人あたりのコスト	開催事業費/参加者数(円) (426千円/77人)			5,532

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 妥当である <input type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない フォーラム(教育委員会と共催)と食生活改善推進員養成講座の開催、各種教室で食に関する指導・地域食育実習教室の支援を行った	
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 上がっている <input type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない フォーラムや養成講座で食育への関心を高め、知識を提供できた	
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 養成講座や教室参加者を増やすために必要なコストである	
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成	
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化(コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 手段の改善(実施主体や実施の手段を代える) <input type="checkbox"/> 効率化(結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化(事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合(他の事業と統合する、または廃止する) <input type="checkbox"/> 現行どおり	
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)	
	(1) 中長期的 市民が食育に関心を持ち、正しい食生活習慣を定着する	(2) 23年度 関係部署との連携し、子どもから高齢者までの幅広い世代に食を通じた健康づくりを支援する
	(3) 22年度 既存の事業を見直し、あらゆる機会での食育を推進する	
21年度の改善計画	地域食育実習教室の内容の見直しを図った	
21年度の改善結果	子どもと男性高齢者を中心とした教室を実施し、新規参加者が増加した。	
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること) 地域で食育を推進するために、食生活改善推進員を含めた各種関係団体と連携していく		
課長所見	食育推進計画を策定し、フォーラムを開催し、事実上のスタートができたので今後いかにして計画に基づき地域に浸透させていくかが課題	